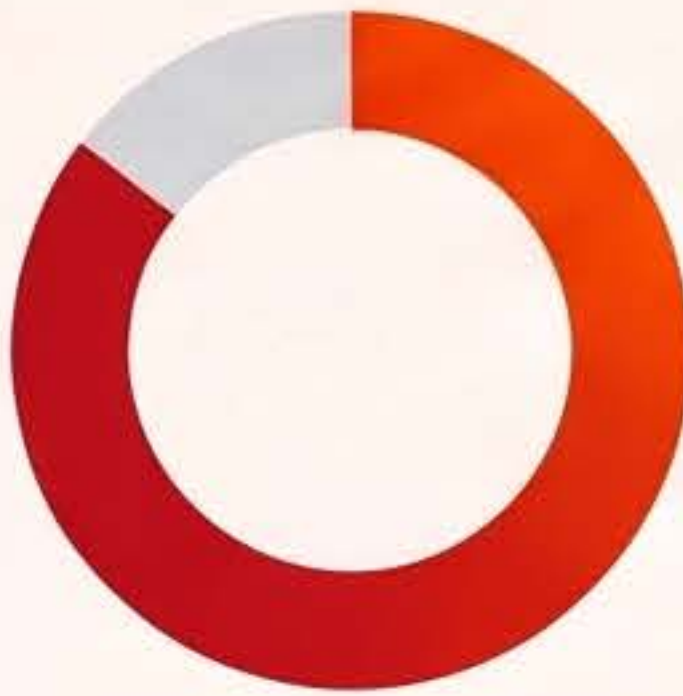


対話から自律へ：日中AIエージェント経済の決定的な格差

AIは単なる「対話型」から、決済や契約を自律的に遂行する「エージェント型」へと進化。
インフラと受容性を武器に爆速で進む中国と、制度・心理的障壁に直面する日本の現状を比較。

日中市場の決定的な実装格差



中国の
AI利用率
有料版利用率
も65%



自律的な決済・実行
決済まで完結する中国
1億2000万件/週
の自動決済が成立

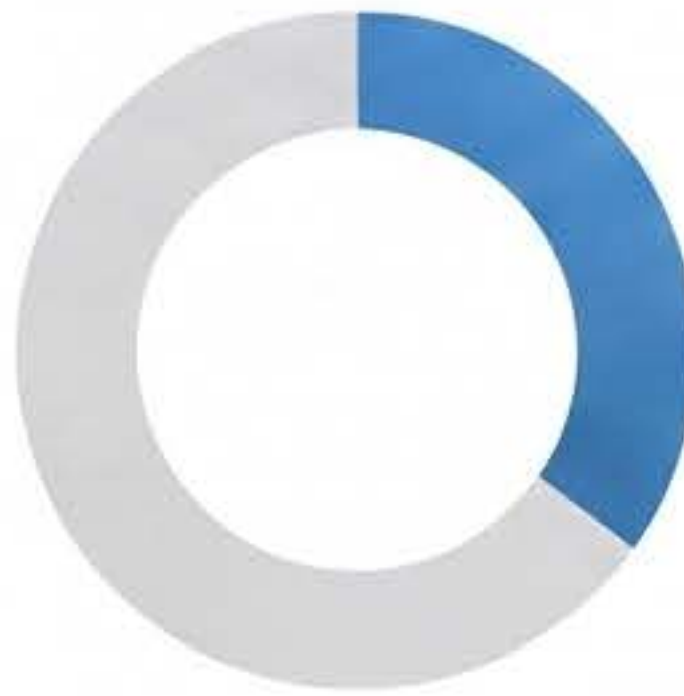
中国で急増する 「ひとり会社 (OPC)」

2025年上半期に286万社が新規登録。
1人で数百のAIを指揮する経営が日常化。



VS

中国と日本のAI利用率の比較



日本の
AI利用率
「提案に留まる」
日本



提案と人間の最終確認
人間が最終ボタンを
押す設計が主流

法的責任の



法的責任の帰属が不明確

AIによる契約ミスが誰の責任か（民法解釈）が未確立で、企業がリスクを恐れている。

商取引システムの断片化とAPI不足



レガシーシステムが多く、外部AIが在庫や価格を読み取れるオープンな接続環境が欠如。

「エージェント棚 (Agent Shelf)」への転換



今後は広告よりも、AIに選ばれるための「機械向けデータ構造化」が覇権を分ける。

評価軸	中国市場（先行・突破型）
中核機能	自律的な決済・実行（アプリ横断・決済）
基盤	スーパーアプリ（共通ID・決済API）
受容性	実利重視（ミスの許容度が高い）

評価軸	日本市場（慎重・支援型）
中核機能	提案と人間の最終確認（レコメンド・提案）
基盤	便別サービス並立（認証・決済が分散）
受容性	待機・完璧主義（減点主義による慎重姿勢）